比5％増の8万372トンと5年連続で増し、過去最高を更新。円の円安進行が進んだ方、内需の盛り上

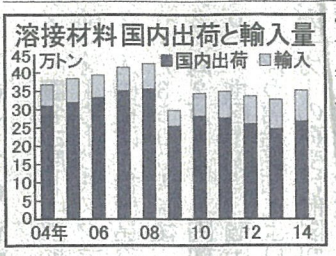
などを生産。年産約60万トンで14年の実績32万トン。稼働率は強。閉鎖、売却した工場と唐津工場のラインの増産を進め従業員140人は、100万トン能力で

万トン強と、11年の約34万7000トンを上回り、内需の復調が見て取れる。

国内出荷は、昨年12月まで16カ月連続で前年同月比プラスを維持するなど回復傾向。14年度の国内鉄骨需要は500万―510万トン程度と13年度からは減少する見込みだが、「建築向けソリッドワイヤ

以上に高水準の入着が続いた。

主要国別では、韓国が前年比1・3％増の



国の異形棒市場中国からのボロン鋼などの攻勢にさされている。小型製は、年間100万トン輸入量で、市況的平均でトン当たり前後安い。これ年の市況軟化の最の原因になっている。代製鉄は、今回の集約で生産コスト減を進め、輸入材を高度化すると共益改善を図る。

日刊産業新聞　15・2・3

みを持たせたい」

「新規市場と地域間ビジネスの拡大も重要な課題となる。12年にミャンマーのヤンゴン

輸入を増やそうと思ってもADの問題などで容易には増やせない。

一方、棒線や鋼管、建材などの分野はSCM

腰壁換気部材を開発

ハウゼコ、住宅向け新製品

hauseco（ハウゼコ、本社＝大阪市中央区、神戸睦史社長）は、住宅のバルコニーやパラペット部の躯体内の湿気や熱気を効率よく排出できる腰壁換気部材「アンタレスベント」を開発し、販売を本格化した。特許出願中。

アンタレスベントは、ガルバリウム鋼板製構造体に通気孔を設けた換気部材。腰壁の躯体内の下方に配置され、防水紙をベースとカバーの間に挟み込んだ形で、通気層を構成する。ベース・カバーの取り付け、上端両面防水テープの取り付けの順で施工する。

同社の笠木下換気部材「アンタレス」と組み合わせて使用することで、湿気や熱気を外気へと逃がす。開口部を上下に設定しており、防水性が高い。部材の板厚は0・35ミリで、製品サイズは長さ1820ミリ。標準色はベースがホワイト、カバーがブラック。

同社では、住宅換気・通気のポイントとなる部材を全体最適の考えで一貫提供する商品として、昨年11月に「ハウゼコセット」を販売開始。急速に普及しているキューブ型タイプのデザイン住宅に適した、アンタレスベントを含む換気・通気部材4商品を組み合わせて市場投入した。

アンタレスベントは、ハウゼコセットの採用を推奨することで普及を図り、より最適な住宅の換気・通気を提案していく考え。

インドネシア子会社

伊藤忠商事に株式50％売却

日立建機

日立建機（辻本雄一社長）は2日、伊藤忠商事と東京センチュリーリースとの間で、連結子会社のP・T日立建機ファイナンス（インドネシア）の発行済み株式の50％を伊藤忠

ンド）の発行済み株式の70％を東京センチュリーリースと、東京センチュリーリースのタイ現地法人のTISCO・Tokyo・Leasingに売却、タイでも建機の販売金融事業を合弁で推進することで合意した。

インドネシアでは、社名を「P・T・Hexa・Finance

ンチュリーリース20％となる。

一方、タイでは社名を「HTC・Leasing・Company」とし、資本金1億バーツ（約4億円）で同じく4月から営業を始める。出資比率（同）は日立建機グループ30％、東京センチュリーリース19％、TISCO・Tokyo・Le

JFEグループ 川崎国際環境技術展に出展

JFEグループは、5―6日に「とどろきアリーナ」（川崎市中原区）で開催される「川崎国際環境技術展2015」に出展し、製鉄事業やエンジニアリング事業を通じての地球環境問題に対する取り組み等を紹介する。

共同出展するのはJFEスチール、JFEエンジニアリング、JFEテクノリサーチ、JFEプラリソース、JFE環境、JFEミネラル。パネ

ど環境負荷低減に貢献する鉄鋼商品群を紹介する。

一方、エンジニアリング事業に関してはバイオマス発電プラントや、下水汚泥の燃料化装置「カリット」など未利用資源を有効活用するプラント商品群とともに、機械式立体駐輪場「サイクルツリー」等をPRする。

7回目となる「川崎国際環境技術展2015」は、新エネルギー支柱やリサイクル支

業務管理システム 12日に無料相談会

アイル、鉄鋼・非鉄業向け

システムソリューションバイダーのアイル（本社＝大阪市北区、東京都港区、岩本哲夫社長）は、2月12日に鉄鋼・非鉄業の業務を効率化する管理システムの個別相談会を同社東京本社（港区芝公園2―6―3）で実施する。参加費無料。

同社が提供する鉄鋼・非鉄流通加工業界向け基幹業務パッケージシステム「アラジンオフィス」、得意先との受発注業務をWeb化するWeb受発注システム「アラジンEC」の他社の活用事例や企業ごとの業務に合わせたシステムの最適な活用法を紹介する。システムの刷新や業務の改善を検討中の企業を対象にしている。

「アラジンオフィス」は、複数工程への加工処理や加工賃を含む原価計算に対応、対応窓口の一本化やコールセンターの設置などサポート体制が充実。97・7％のリピート率を得ている。「アラジンEC」は管理者側・利用者側ともに使いやすさを追求したシンプルな画面構成となっている。

時間は10時半から12時、13時半から15時、15時半から17時の3回開催。申し込みは電話0120―356―932まで。

ノウハウを生かして、建設、インフラ分野での投資などを背景とした建機需要の拡大を見込み、拡販を図る。

た。14年の基本配当は42億ルピだった。配当は4月と10月の2回に分けて実施する際に取締役会で審議する。

米石油リグ稼働 前週から94基減

87年以来の落ち込み

【ニューヨーク時事】米石油サービス会社ベ

基と、2012年1月以来3年ぶりの低水準に落ち込んだ。米メディアによると、1週間の落ち込み幅としては1987年以来最大。